

# 岩手県感染症週報

平成27年第34週(8月17日～8月23日)

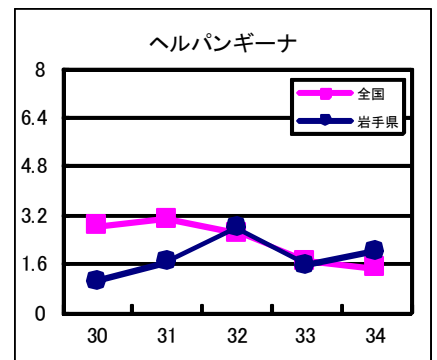
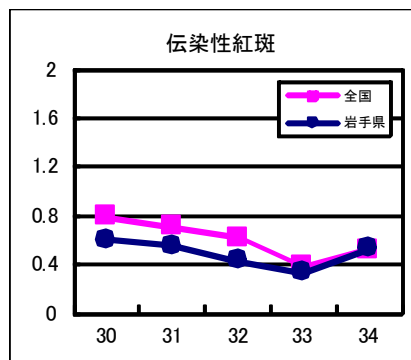
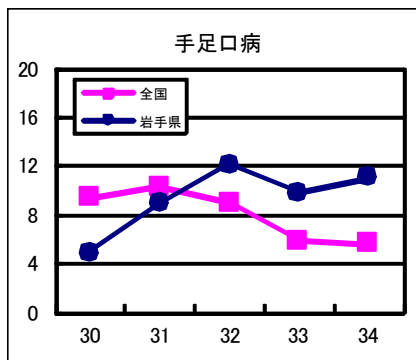
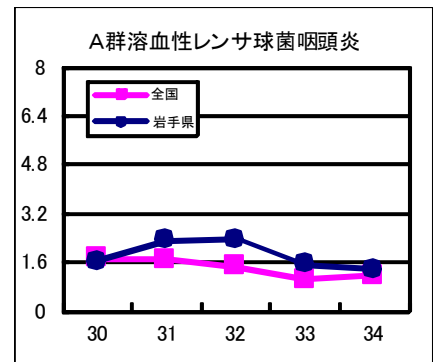
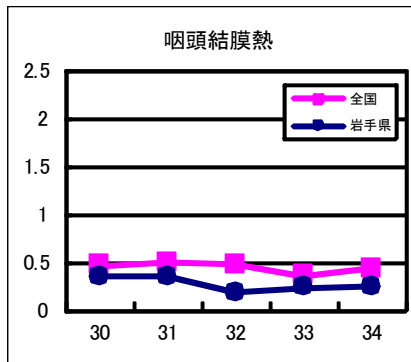
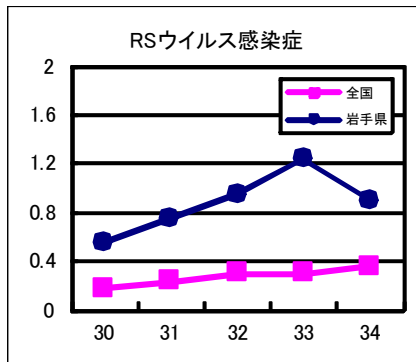
岩手県感染症情報センター

## 第34週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が4例ありました。4例すべて潜在性結核の報告です。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症(全数報告)は、11例の報告があり、今年の報告総数は66例となりました。患者から検出されている大腸菌は、0157が17例、026が40例、その他が9例となっています。
- 4 類感染症 ・E型肝炎の患者の報告が、盛岡市から1例ありました。
- 5 類感染症(全数把握対象疾患)
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が、大船渡地区より1例ありました。
- 5 類感染症(定点把握対象疾患)
  - ・手足口病は、4週続けて警報値(定点あたり患者数5人)を超え、県全体で流行が続いています。年齢別では5歳以下が90%以上を占めており、保育園等での感染予防対策(石けんと流水による手洗い、排泄物の適切な処理、タオルの共用を避けるなど)が重要です。本疾患は、まれに髄膜炎を併発することがあるので、頭痛や嘔吐がある場合には、早めに受診しましょう。
  - ・ヘルパンギーナは、中部地区で多くなっています。例年、夏から秋にかけて流行が続くので注意が必要です。
  - ・RSウイルス感染症は、奥州地区で多い状況が続いているほか、この週は二戸地区で報告数が多くなりました。患者はほとんどが2歳以下です。乳幼児では、細気管支炎や肺炎等を併発し、呼吸困難を呈することがあるので注意が必要です。

## 最近の注目疾患(定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾病となりました。

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		30	31	32	33	34		
インフルエンザ	岩手県	0	0.02	0	0	0	→	
	全国	0.08	0.06	0.05	0.05	0.05	↘	☆
RSウイルス感染症	岩手県	0.55	0.75	0.95	1.23	0.9		
	全国	0.18	0.23	0.3	0.3	0.36		
咽頭結膜熱	岩手県	0.35	0.35	0.18	0.23	0.25	→	☆
	全国	0.46	0.5	0.47	0.36	0.43		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.63	2.3	2.33	1.53	1.35	→	☆☆
	全国	1.73	1.7	1.46	1.03	1.16		
感染性胃腸炎	岩手県	2.85	3.15	2.85	2.3	3.65	↗	☆
	全国	3.42	3.58	3.4	2.47	3.13		
水痘	岩手県	0.3	0.25	0.15	0.25	0.1	→	☆
	全国	0.34	0.3	0.29	0.22	0.26		
手足口病	岩手県	4.85	8.88	12.1	9.83	11	↗	☆☆☆
	全国	9.38	10.26	8.95	5.9	5.64		
伝染性紅斑	岩手県	0.6	0.55	0.43	0.33	0.53	→	☆
	全国	0.79	0.71	0.62	0.38	0.52		
突発性発疹	岩手県	0.53	0.45	0.38	0.55	0.8	→	☆
	全国	0.55	0.59	0.6	0.44	0.56		
百日咳	岩手県	0	0	0	0.03	0.03	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	1.03	1.65	2.78	1.55	2.03	→	☆
	全国	2.82	3.05	2.61	1.7	1.47		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.13	0.23	0.1	0.35	0.1	→	☆
	全国	0.52	0.58	0.53	0.44	0.53		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.07	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.79	0.07	0.5	0.07	0.21	→	☆
	全国	0.84	0.86	0.88	0.64	1.15		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.01	0.02	0.03	0.03		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.08	0.08	0.06	0.07	0.08		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.26	0.05	0.05	0.32	0.26	→	☆
	全国	0.33	0.35	0.4	0.5	0.5		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0.05	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0	0	0	0.05	0.05	→	
	全国	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01		
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	0		
	全国	7	5	4	14	7		

【流行傾向の見方】

無印：ほとんど患者が発生していません

☆：患者が発生しています

☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります

☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※中東呼吸器症候群 (MERS) 及び鳥インフルエンザ (H7N9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国	
		30	31	32	33	34	累計	34
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	6 (4)	7 (6)	10 (5)	0	4 (4)	158 (73)	333
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	6
	腸管出血性大腸菌感染症	2	12	25	7	11	66	145
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	22
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	23
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	1	4	3
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	1
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	3
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	2
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	11
	つつが虫病	0	0	1	0	0	5	2
	デング熱	0	0	0	0	0	0	9
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	4
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1
	野兎病	0	0	0	0	0	0	1
	ライム病	0	0	0	0	0	0	1
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	1	0	0	15	9
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	9
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0

全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

（患者発生数）

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例）、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されるようになりました。

分類	疾病名	岩手県						全国	
		(週) 30	31	32	33	34	累計	34	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	2	0	0	1	0	5	19	715
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）	0	0	0	0	0	1	1	159
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	0	0	1	2	38	957
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	2	6	336
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	4	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	0	2	5	291
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	13	918
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	48
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	2	0	3	4	164
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	22
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	13	7	1561
	水痘（入院例）	0	0	0	0	0	3	3	205
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	41	1511
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	74
	破傷風	0	0	0	0	0	1	3	72
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	39
	風しん	0	0	0	0	0	1	1	123
	麻しん	0	0	0	0	0	0	1	27
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	23

今注目の感染症

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、発熱、口腔粘膜に現れる水疱性の発疹を特徴とした、乳幼児を中心に夏に流行する急性ウイルス性感染症です。いわゆる夏かぜの代表的疾患です。

今シーズンの岩手県の発生状況ですが、第27週から増加傾向にあり、第33週は一時減少しましたが、第34週は増加しております。年によって流行の大きさは違いますが、例年、夏から9月上旬まで報告数の多い状況が続くので、今後の発生動向に注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

ヘルパンギーナ 岩手県  
2009-2015年第34週

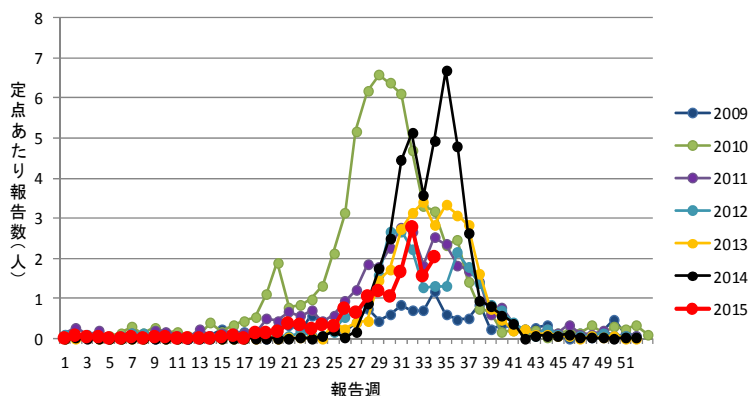


図1 ヘルパンギーナ 岩手県の年別流行状況

## 今注目の感染症 (つづき)

### 手足口病

手足口病は、口の中や手足に現れる発疹を主症状とした急性ウイルス性疾患です。乳幼児を中心に主に夏に流行する疾患です。3～5日の潜伏期において、口の中、手のひらや足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、臀部などにも出現することがあります。

基本的には、数日で回復する予後良好な疾患ですが、まれに髄膜炎や脳炎を併発することがあるので、頭痛や嘔吐がある場合は小児科受診が必要です。

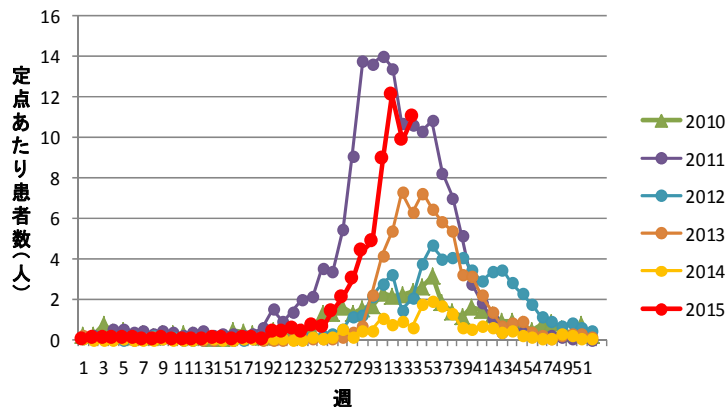
病原ウイルスは、主にコクサッキーA16 (CA16)、CA6、エンテロウイルス71 (EV71)などのエンテロウイルスですが、他のエンテロウイルスによっても発症します。環境保健研究センターで実施しているウイルス検査ではCA6およびCA10が検出されています。

手足口病及びヘルパンギーナは、咳等の飛沫感染のほかに、便中にもウイルスが排出されるため、予防には手洗いの徹底が重要です。

参考 感染症研究所 手足口病とは

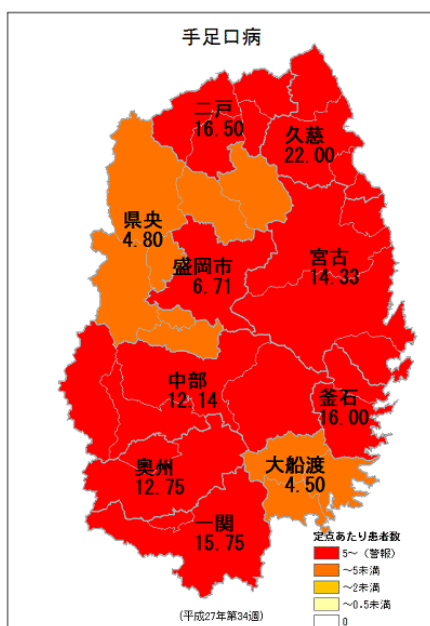
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>

手足口病 岩手県  
2010-2015.第34週

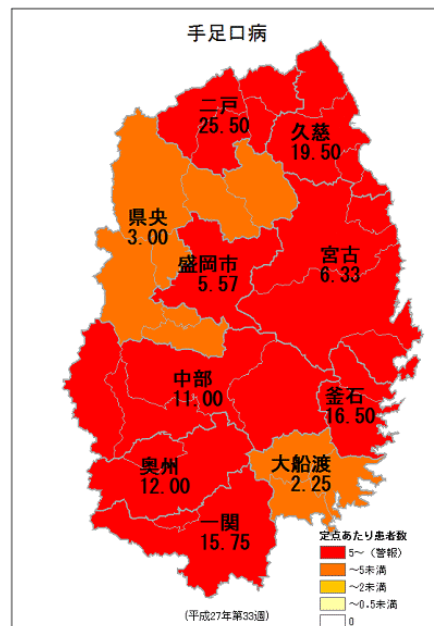


岩手県の発生状況ですが、6月下旬から増加が続き、第31週には県内で警報値（定点あたり患者数5人）を超えました。第32週はさらに増加し、大船渡地区を除く9地区で警報値を超えました。第33週にはやや減少しましたが、第34週には再度増加しました。

県全体でも4週続けて警報値を超え、依然として流行が続いています。



第34週



第33週

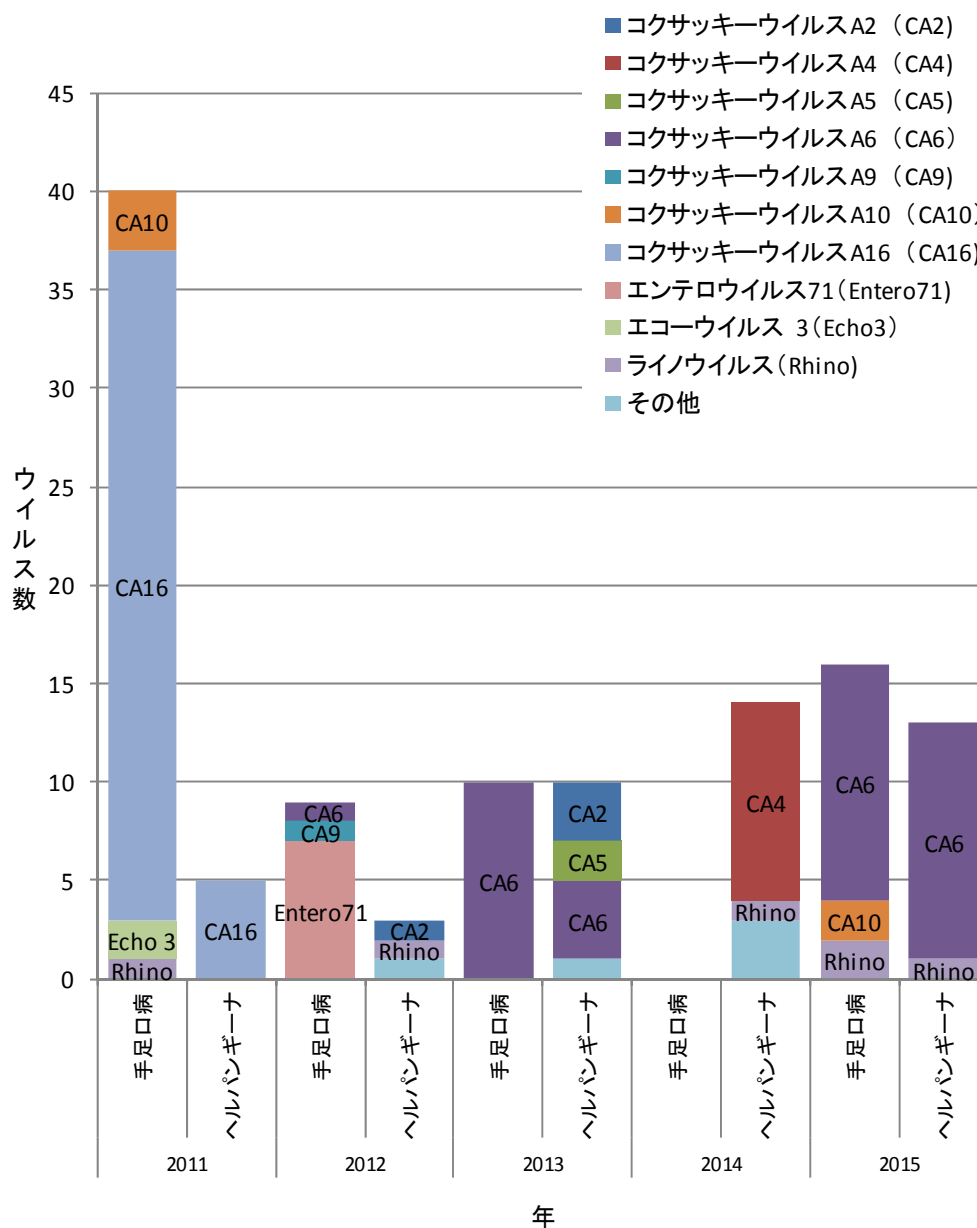
## 今注目の感染症（つづき）

### 手足口病およびヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス

県環境保健研究センターで、2011年から2015年第33週までに、手足口病およびヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスを年別に示しました。

全国の週別の分離・検出状況

ヘルパンギーナ <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/iasr/Byogentai/Pdf/data26j.pdf>  
 手足口病 <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/iasr/Byogentai/Pdf/data115j.pdf>



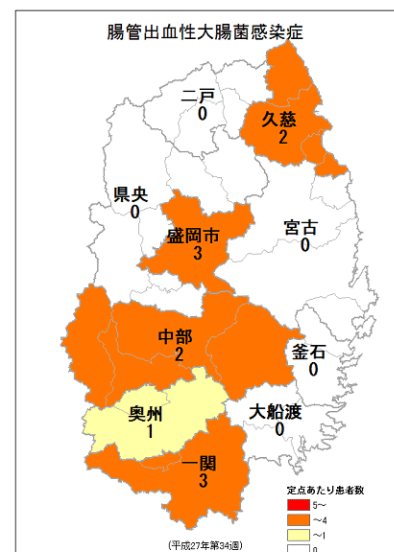
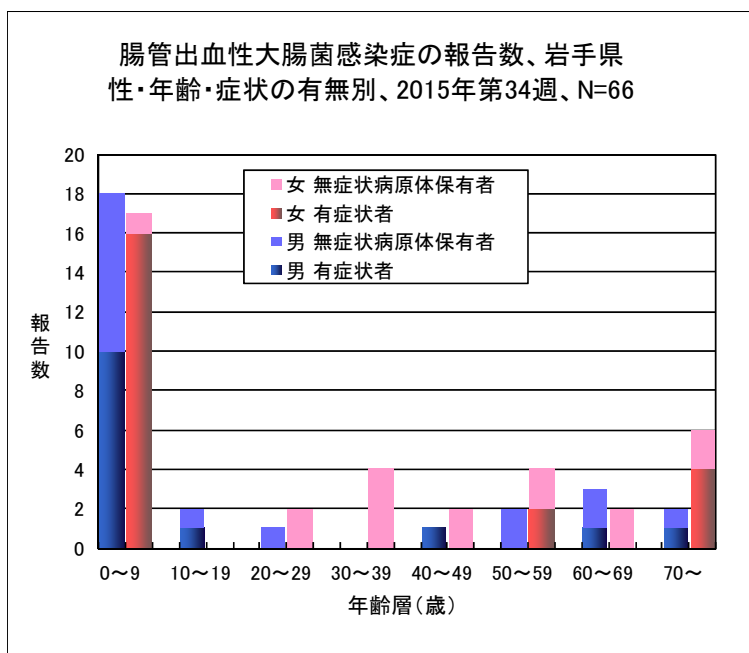
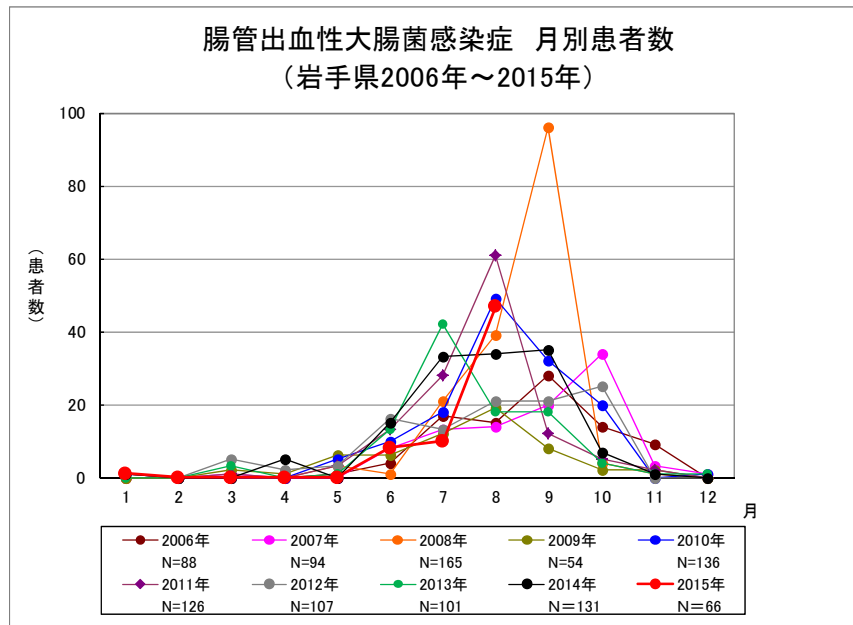
## 今注目の感染症（つづき）

### 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素（Verotoxin:VT またはSigatoxin:Stx）を産生する大腸菌が原因の腸管感染症です。症状は、無症状から、軽度から重度の下痢、激しい腹痛、致死的なものまで様々な臨床症状があります。

岩手県の平成27年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、第34週までに66例の患者さんが報告されています。原因となった大腸菌は、O157が17例、O26が40例、O111が4例、O128が2例、O103が1例、O168が1例、O型不明が1例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く35名、次いで70歳以上が8名となっています。

本症の予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水による手洗いの励行が重要です。



第34週

## 病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

## 集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

## 医療機関からの情報

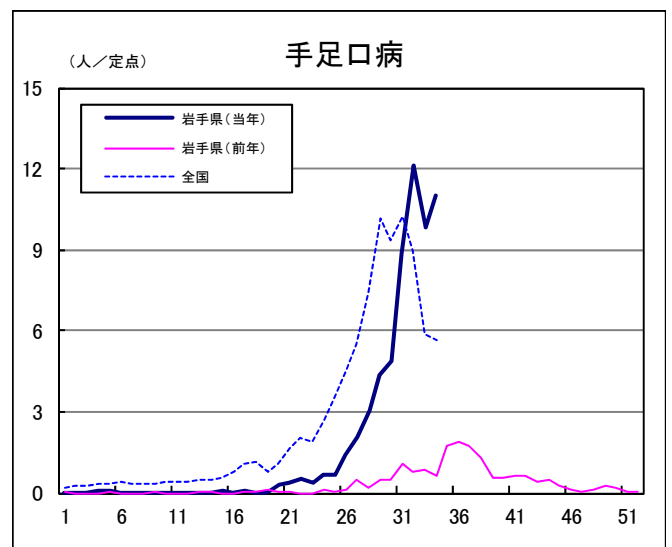
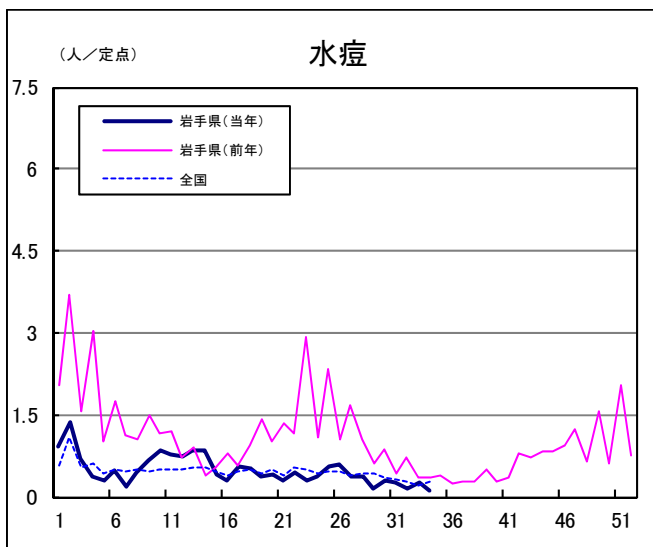
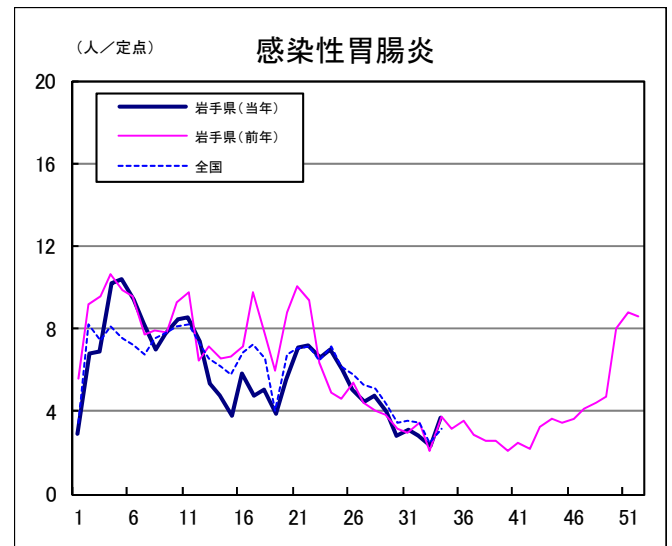
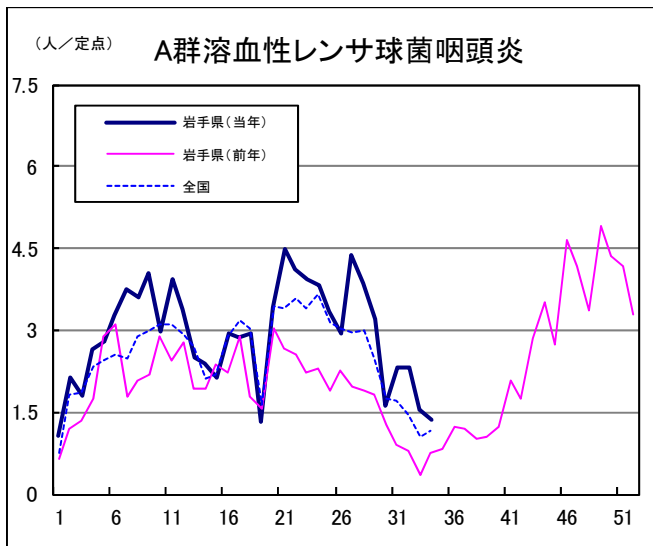
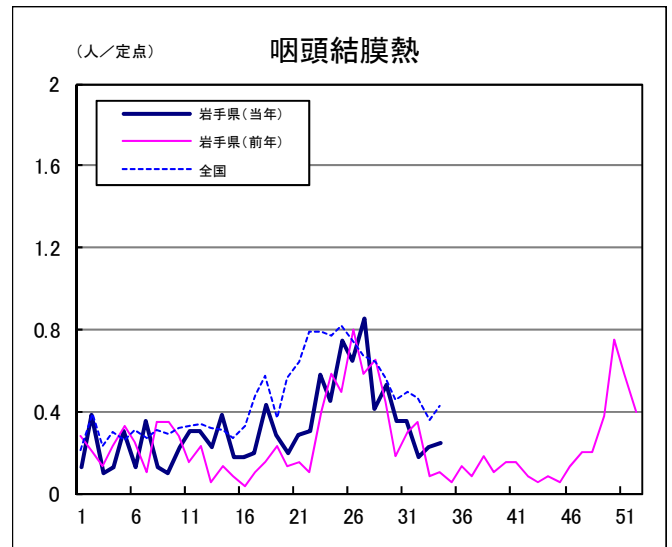
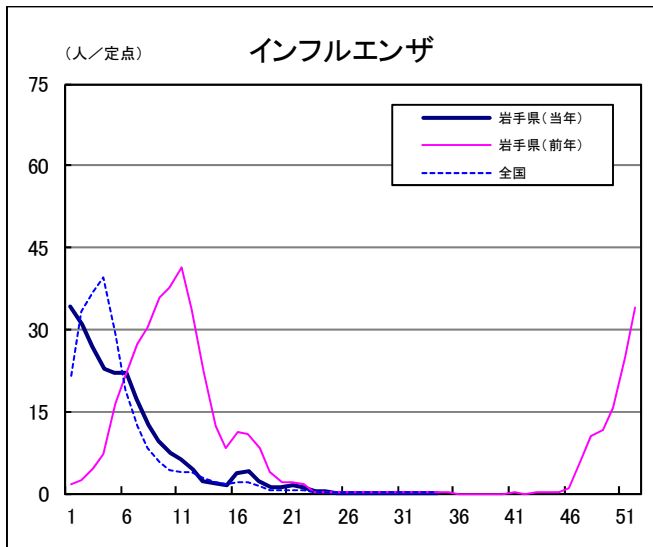
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

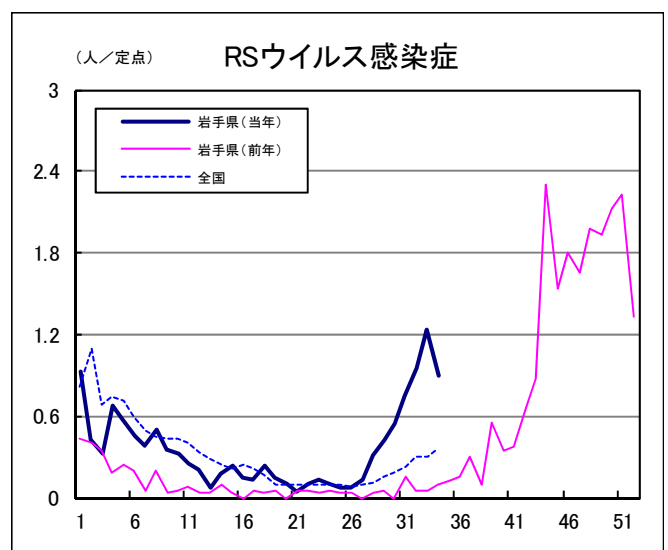
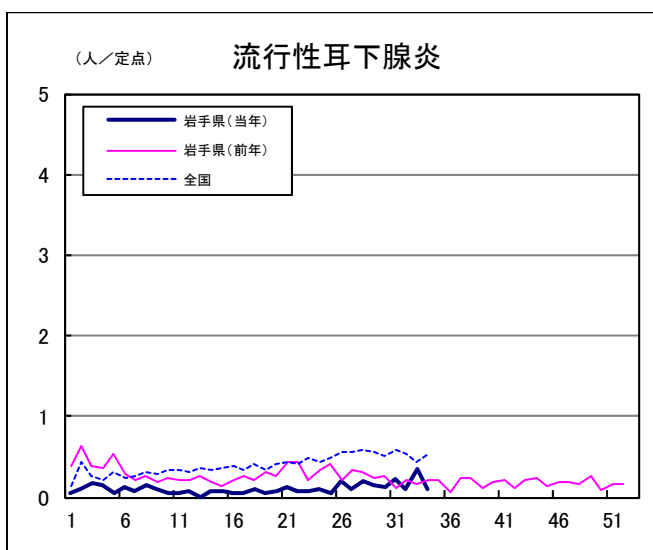
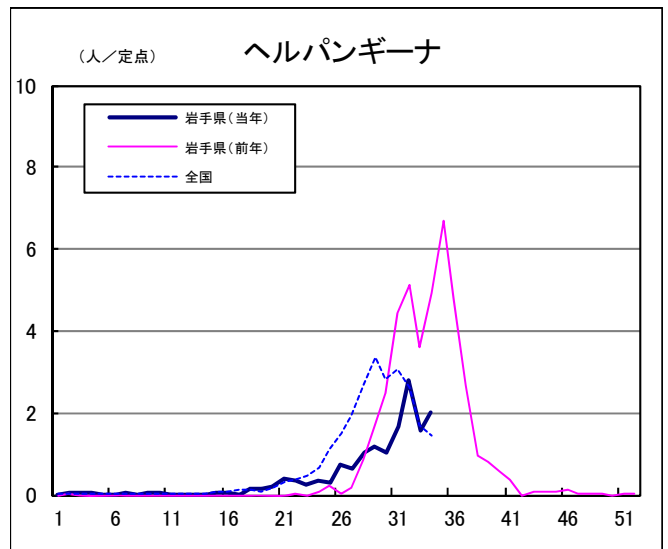
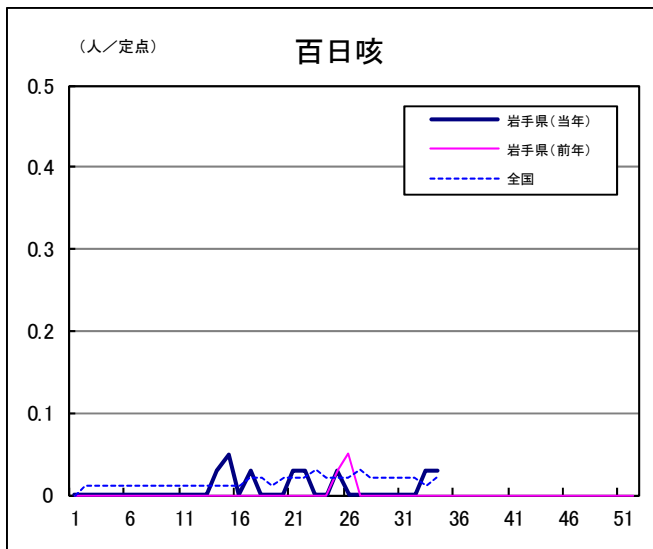
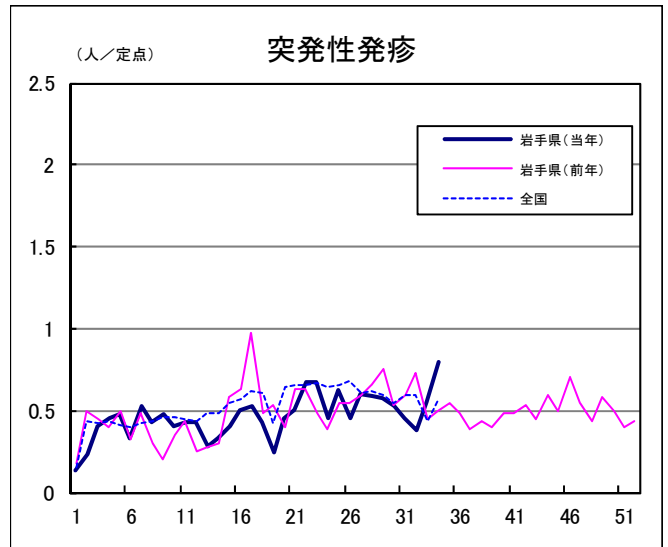
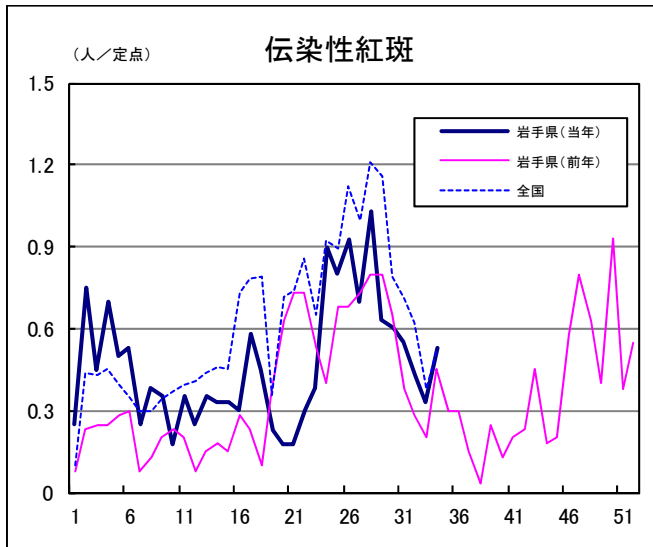
## Q & A

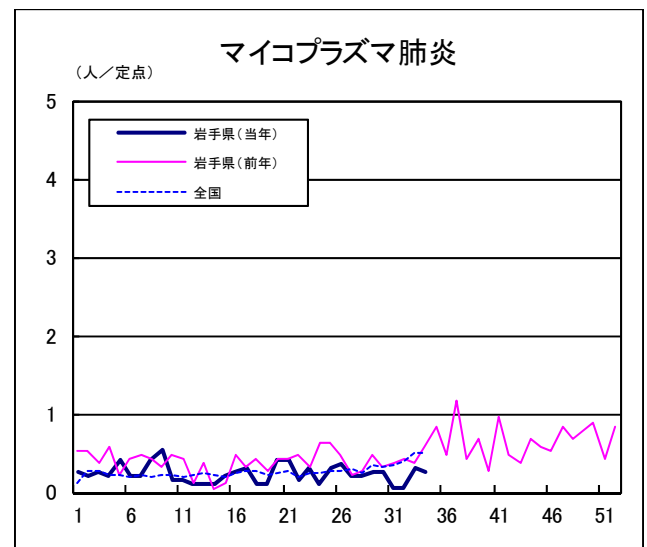
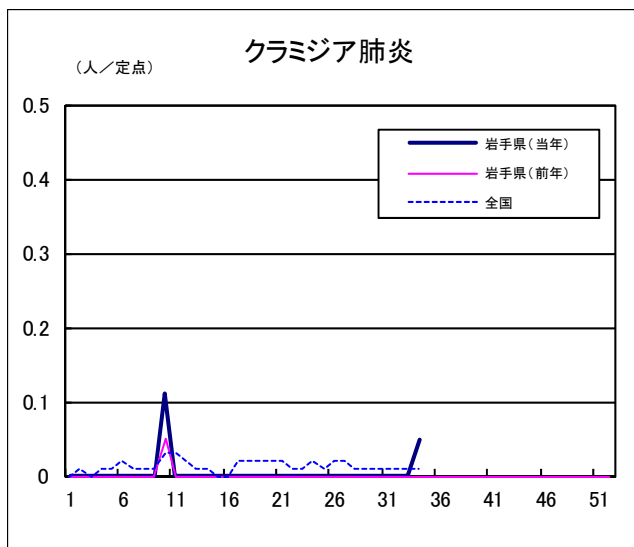
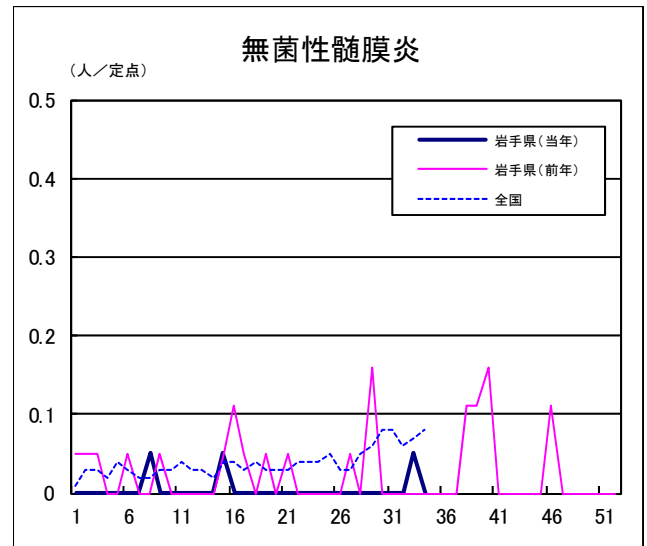
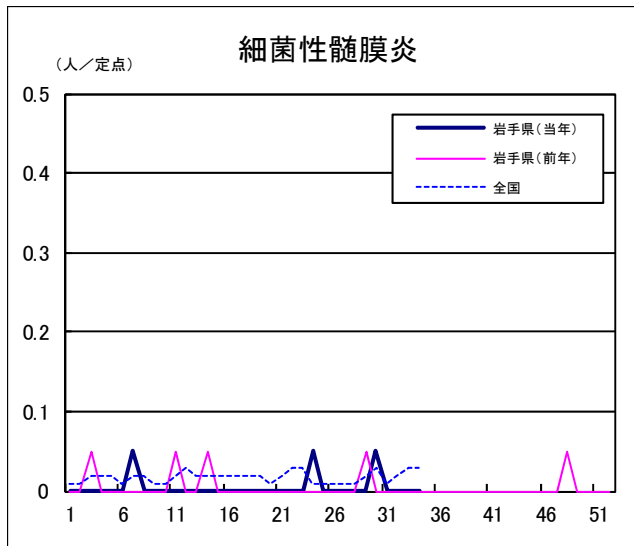
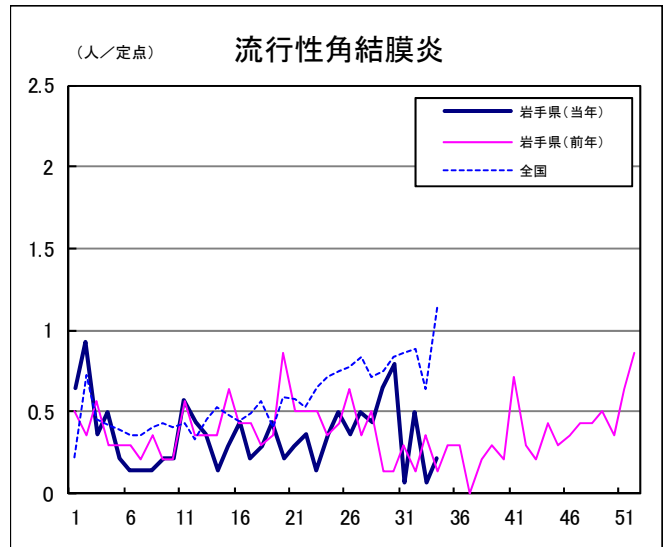
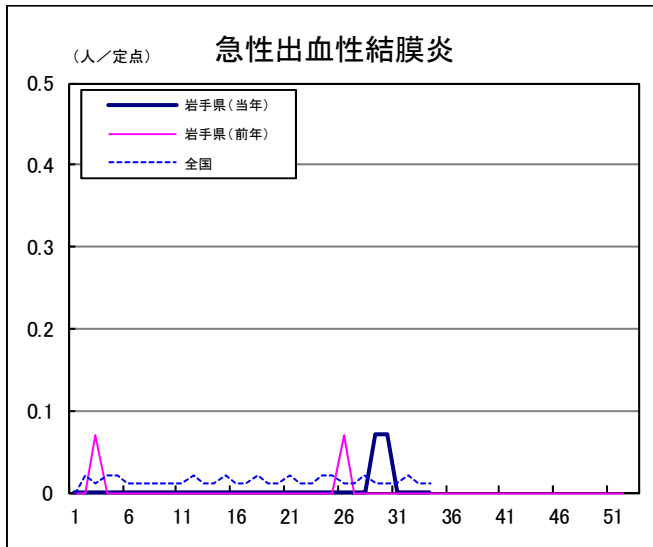
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第34週 平成27年8月28日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryou/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>